

「いずみ界限」通信 No.2

旧北国街道いずみ界限を考える会

環境と歴史が融合した街整備

考える会 喜多事務局長が講演



旧北国街道いずみ界限を考える会の歴史教室は16日、國造神社境内の泉文化会館で開かれ、喜多利男事務局長が「昔のいずみ界限は」をテーマに講演し、参加した54人の住民が喜多事務局長の「ホテルを飛ばし、環境と歴史が融合した街づくりの整備をしたい」と

の提案に熱心に耳を傾けました。歴史教室は今年2月に発足した「考える会」の初行事で、まず自分たちの地域のことを知ることから始めようと開かれた。歴史教室は冒頭、松下良会長が「いずみ地域は水のきれいなとても素晴らしいところです。氏子総代会の支援もいただき、この運動の拡大を図っていききたい」と挨拶し、続いて喜多事務局長が平安時代から昭和時代までのいずみ界限の歴史を神社仏閣や泉の地名の由来となった富樫一族の泉館などに触れながら解説しました。用水や道路で分断された弥生地区と三馬地区の泉地域の融合がホテルを通して動き始めたことを訴え、「地域に歴史を残すためにも野々与造園裏手の原生林地を生かし、泉界限のことがすぐ分かる場所として整備したい」と提案し、賛同の拍手を受けました。歴史教室には金沢市都市整備局の野口広好局長や玉野道市議も臨席しました。

